

# 生活介護事業所 奏楽

## 令和4年度 事業報告書

### 《令和4年度の経過と評価》

開所当初から、一貫したテーマとして、『みんなで笑顔あふれる職場をつくろう！』を掲げてきた。利用者一人ひとりが、よりよく生きること（生きがい・達成感）、生活の質（QOL）の向上を目指した。そのための手段として日中活動種目（生産活動・余暇活動）を設定している。生産活動では、どんなに重い障害を持った方でも参加できるように一人ひとりの能力に応じて工程の細分化に努めた。『出来ること』が増えたことにより、職員や仲間から認め、褒めてもらえるような機会を作り、やりがいや能力の向上に務めた。また新たな可能性の追求、ステップアップ、本人の希望も考慮して、ジョブローテーションを行った。コロナ禍でもあったので多くの利用者を対象には出来なかったが行なった利用者の満足度は高かった。副産物として、職員の支援の仕方を他の作業班職員から学び自分の支援を考えるきっかけともなった。

また、職員間の情報共有不足を補うために毎日の振り返りを行い、良かったこと、課題点をメーリングリストを通して全職員で共有するように努めた。一方で、振り返りで出た情報が支援記録に反映されていなかったり、共有されるはずの情報が入力者によって割愛されたり、振り返りの時に深掘りしたほうが良いこともそのままスルーしてしまったりと課題も多かった。毎月の班会議、支援会議、職員会議等を通して、『皆が笑顔で主役になれる』ためにはどのような支援をする必要があるかを考える機会を設けた。今年度は、特に虐待防止について毎月何らかの形で学ぶ機会を設けた。しかし、内容が盛り沢山の上、コロナ渦の影響による会議の時間短縮を余儀なくされ、深掘りが不十分だった点は否めない。

事業運営については新たに新卒者が2名加わり31名となった。定員数としては充足することが出来た。しかし、併用利用者もおり若干の空があるため条件が合えば受入れを進めていきたい。また、見学希望者は事業所を知ってもらうためにコロナの流行状況に配慮しつつ積極的に受け入れた。

組織作りに関して、中・長期的視点での人材育成として法人主導のもと、『人材育成を目的とした人事評価制度の取り組み』へのチャレンジが実質2年目となったが評価者の熱意や進め方にバラつきが見られ標準化出来なかった。また、月2回の管理者会議の実施により、事業所間の連携・協力を努めたが、もう一步踏み込み我が事として共有していく必要があった。

地域との関りについては、久しぶりに校区の文化祭が開催され、運営、参加に協力を行うことが出来た。事業所前にてぶっくの日と題して、青空市を毎月行なう計画をたてた。1年間で10回開催（2回は中止）することが出来好評を得た。地域との関わりもだいぶ回復してきた。

【喫茶班（Café 奏）】は、コロナ渦の影響はほぼ受けることがなく、むしろ開所以来最高益を出すことが出来た。LINE 公式アカウントや Instagram、ブログ等の SNS を活用し、店舗の宣伝のみならず、利用者の活動状況も発信し障害理解のための情報発信にも努めた。商品については、季節感を重視した期間限定での和菓子の提供、自家栽培で

のバターパーティーの提供、様々な食材を取り入れた多種類の蒸しパンの提供、楽<sup>2</sup>班が丹精込めて作った自然栽培の野菜を使用しての商品提供など、安全性や話題性にも留意して商品提供に工夫をおこなった。また、コロナ禍に留意して、テイクアウト商品（おにぎりセット、たこ焼き、お好み焼き、みたらし団子等）の充実を図った。また、金田住宅に限っては無料配達をする等工夫を行い集客、地域貢献をすることが出来た。配達には利用者も出かけ丁寧にあいさつする等、地域との関わり、やりがいを感じる事が出来た。テイクアウトについては、利用者の関りが少なく、充実感、やりがいと言う点では課題が残った。利用者から店舗にてお客さんからオーダーを取りたいとの要望があるが、現状としては、一部の利用者のみが行っており改善をしているが、なかなかうまくいかない。今後も皆がオーダーを取れる形を模索して行く。

【焼き菓子班（OYATU 工房という）】は、イベントが少しずつ再開され販売先に苦慮することも少なくなってきた。また、特に営業もしていないのに口コミでの大口注文を何件もいただくことが出来た。季節感を大切にした商品も開発し、定期的な予約販売にも力を入れた。購入しやすい価格設定、柔軟なギフト商品作りも人気があり個人での大量注文も多かった。ギフトについては、定番商品のカタログ作成を目指したが、完成することが出来なかった。また、売り上げ増のためにワンランク上の商品づくりとして、アツミフーズ、法政大学とコラボして、廃棄イチジクを活用したイチジククッキーの商品化に成功した。SDGS に配慮し、地球環境に優しく、良質な材料も使用した高付加価値商品を提供（東三河の道の駅やアツミスーパー等に常設）することが出来た。他にも、こだわりのお店からのオリジナルクッキーの開発を依頼され、試行錯誤の中で商品化することが出来た。昨年度に続き、自分たちでも野菜から作ってみようと、小さなスペースを借りて野菜（生姜、ハーブ、人参、小松菜、ミニトマト等）を育てて商品に変えていくと言う貴重な体験も続ける事が出来た。また、楽<sup>2</sup>班で収穫した自然栽培の野菜も多く取り入れ、ラベルを手書きにする等、手間をかけることで利用者の関わる事の出来る作業が増えた。また、体力的に、一日作業を行うのが難しい利用者もいる事から、木工作家さんから、カッティングボードやペン立てのやすり掛けなど、納期が長く負荷の少ない作業も設定した。他にも駐車場などの環境整備、体力づくりなど、生産活動以外の活動にも力を入れ、頑張る時と、ゆっくりする時を上手に使い分けることが出来た。

【軽作業班（楽<sup>2</sup>）】では農作業（自然栽培）を軸とした組立てを行い、全国的な組織である自然栽培パーティーに参加している。月 2 回の WEB による勉強会に参加し、作物の栽培、販売方法、利用者の仕事づくりなどの情報交換が頻繁に行え、職員の知識の向上やモチベーションアップが図られ事業の拡大に貢献できた。主力の作物は安定的にできているが、その他の作物へ手が回らず、失敗してしまっていることも多い。来年度は作付け品目を絞り、無理のないようにきれいな野菜を作っていきたい。また、自然栽培の野菜を中心とした「奏楽 季節のお届けセット」を作成し毎月 18 セットのご注文（年間契約）をもらい安定的な売上増に貢献できたが、職員の負担が大きすぎるので、来年度は数を減らしていく。主力作物のブルーベリーと、さつまいもは豊作であり渥美スーパー等、常設の店舗も増え、販売が伸びている。サツマイモは、加工して干し芋として

販売しとても美味しいと評判を得た。干し芋の作業については、ハウスを改良して作業場を拡大し、工程を見直すことで多くの利用者が関われるようになった。品質も向上しお客様や取引先店舗からも高い評価を得ることが出来、昨年度までの 400 円から 450 円へ値上げをしたが、売り上げへの影響はほとんど感じられなかった。

夏場の熱中症対策のため、短時間での作業設定、首掛けタイプの保冷剤、ミスト式の大形扇風機の導入、経口補水液の提供など健康面にも配慮し、安心して生産活動ができる環境を整えた。

委託作業については、野菜の袋詰め生産効率が上がり、午前中に作業が終われないことはほとんどなくなっている。人参の大袋や、じゃがいもの袋詰め作業も始まり、受け取り、納品担当職員の負担が増えてしまっている。そのため、納品は午後の作業の中で行けるようにする等、担当を分散し負担が軽減するようにした。野菜の委託作業の他に、犬のおやつ袋詰め作業も始めた。こちらも作業を切り分けることにより、ほとんどの利用者が関わることが出来た。同時に作業室のレイアウトも変更し流れ作業で行いやすい環境を整えることが出来た。作業効率が向上し時間に余裕が出来たため作業が早く終わった時は、健康体操や、ゲームをするなど、余暇活動を充実させることが出来た。午前中に野菜の委託作業、農作業を行い、午後には体力づくりへ行き、一部作業、余暇活動を行うという流れができた。ほとんどの利用者さんはその流れに乗ることが出来ているが、一部の利用者は畑に行けず、設定が十分できないこともあった。

SNS の活用としてインスタグラムの投稿を頻繁に行いフォロワー数が増えてきている。

#### 《重点課題に対する取り組み》

##### 1. 運営基盤の強化（運営・管理体制、サービス管理）

職員体制については、経験を積んだ職員が増えてきたこともあり安定しつつあるが、送迎の負担は大きい。らくらく班については他事業所との兼務職員や時短職員が多く日によって、職員配置が手厚いときと薄いときの差がみられるのが課題であるなどまだ不十分な面も見られる。よりよく上を目指したくなるような仕組みを整えたい。今年度から始まった兼務については、週一程度であれば比較的スムーズと感じた。一方で、毎日、勤務の仕方（すたあと&奏楽）が変わる場合は、モチベーションの維持やコミュニケーションに課題を感じた。新型コロナウイルス感染症に関しては、夏場に多くの陽性者を出してしまった。

法人内の連携について、多機能型事業所童里夢とは、同じ日中活動事業所として送迎等で協力する場面も多いが、さらなる協力体制の構築が必要と感じる場面も見られた。短期入所に関して今年度はコロナウイルス対策のため利用を制限し十分に活用できなかった。

##### 2. 利用者サービスの拡充

法人理念のもと、『どんなに重い障害をもっていても、立派な生産者と認めあえる』ように障害特性に配慮しながら生産活動を中心とした事業運営に努めた。生産活動では、重い障害を持った方でも自信をもって関われるように作業工程を細分化、単純化する取り組みを進めた。すべての作業が出来るようにするのではなく、得意を活かせるような

設定を行い『褒め、励ます』機会を増やせるように工夫した。しかし、時に設定が充分行えずに不調になってしまう場面も見られた。試行錯誤の繰り返しが多いが、今後も工夫を継続していきたい。生産活動ではは創意工夫を行い売り上げを増やすことが出来た。年度末には、通常にプラスしてかなりの金額の工賃を出すことが出来た。お互いを認めあう活動として、毎日の帰りの会の際に『いいねタイム』は続け、利用者の良かった言動を互いに褒め合う時間を作り定着化してきている。また、『いいねの木』を作成、食堂に掲示し、『いいねの見える化』を継続して行っている。クラブ活動（レクレーション、書道、リズム体操、太鼓、茶道、ダンス、さをり）については以前に比べると休止することも少なくなり通常の活動に近づきつつある。日帰り旅行については、昨年について童里夢と合同で計画し、いくつかの方面の中からを自分で行きたい所を選択する機会も提供し自己選択、自己決定が行えるように工夫した。法人全体の忘年会については、昨年度に続いてオンラインにて開催した。いろいろ工夫をし、満足度は低くないが、オンラインでできることに限界があった。

### 3. 人材育成/支援力の向上

事業所・職員の役割として、利用者一人ひとりが『その人らしく、より輝いていけるよう』支援する事が根幹であり、日中の様々な活動はそのために存在する事を会議など様々な場面で共有、確認を行ってきた。職員研修については、オンラインによる研修が確立され、今まで参加が難しかった遠方での研修にも参加する機会を得ることが出来た。半面、オンライン研修は手軽である一方、現地参加の緊張感が少なく、より高い意識をもって研修に臨む必要性を感じた。次年度は、伝達研修については、職員会議の枠の中で行なった事により、時間が十分とれず、中途半端になってしまうことが多かった。法人全体研修では、コロナ禍でもあったため、5つの拠点に別れて行った。すべて、職員の自前で行ったため関わった委員の意識は高まった一方で、外部講師に頼らず行なった事で『引き出しの限界』も感じており担当職員のさらなる資質の向上が求められる。

《 地域活動：事業所の社会化 》

福祉体験学習・ボランティア体験学習・職場体験学習等 受入日／人数					
受入日	学校名	人数	受入日	学校名	人数
新型コロナウイルス感染拡大のため実施しなかった					

《 事業所外生活支援：自立（律）生活訓練（宿泊体験）の連絡・調整 》

自立（律）生活訓練（宿泊体験） 人数												
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
延べ人数	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0
新型コロナウイルス感染拡大のため実施しなかった 年間延べ人数： 0人												

《 防災計画・安全管理：防災訓練、防災委員会活動 》

防災訓練・学習 実施日			
4/22	防災学習 (不審者対応について)	12/16	防災学習 (不審者対応について)
5/19	防災訓練 (地震想定)	1/13	防災訓練 (地震想定)
8/19	防災学習 (台風の備えについて、防災クイズ)	2/17	防災学習 (災害時の自助について)
9/30	防災訓練 (不審者対応)	3/18	総合防災訓練 (水消火器、起震車、地震想定学習) 引き取り訓練
10/21	防災訓練 (地震想定)		
11/18,23	防災訓練 (地震想定)		

防災委員会活動	
5/19	今年度年間計画・担当者の確認、6月法人全体研修 (防災 HUG) について
9/22	非常災害対策計画 (BCP) の更新、不審者対応マニュアル
12/22	不審者対応マニュアル、3月総合防災訓練について
1/22	送迎時防災、防災マップ進捗、3月総合防災訓練について 来年度の課題の洗い出し
3/23	1年の振り返り 不審者対応マニュアルの完成、BCPの更新、来年度について

《 職員研修》

研修の実施状況

月	内容	対象者
4月	自然栽培パーティー勉強会（オンライン） 食品衛生講習	生活支援員 食品衛生講習
5月	自然栽培パーティー勉強会（オンライン）	生活支援員
6月	自然栽培パーティー勉強会（オンライン） 障害者の権利擁護研修（虐待防止・差別解消） 第1回法人全体研修（インシデント/ヒヤリハット） 虐待防止研修（防止法の理解）	生活支援員 生活支援員 法人全体 事業所全体
7月	全国知的障害関係施設長等会議（オンライン） 虐待防止研修（グループディスカッション）	管理者 事業所全体
8月	障害者の権利擁護研修（虐待防止・差別解消） 新人職員フォローアップ研修（オンライン） 自然栽培パーティー勉強会（オンライン） 虐待防止研修（サポカレ視聴、グループディスカッション）	生活支援員 生活支援員 生活支援員 事業所全体
9月	セルフ療育研修会（インシデント） 自閉症のパニックを0にする12の方法 口腔ケア研修会 自然栽培パーティー勉強会（オンライン） 第2回法人全体研修（虐待防止、未来の事業構想） 虐待防止研修（テキスト：見直そうあなたの支援を）	生活支援員 生活支援員 生活支援員 生活支援員 法人全体 事業所全体
10月	サービス管理者更新研修 食品衛生講習 東海地区職員研修「人権意識の高い専門職を目指して」 アンガーマネジメント研修（オンライン） 障害者の権利擁護研修（虐待防止・差別解消） 自閉症理解研修 自然栽培パーティー勉強会（オンライン） 虐待防止研修（パニック対応動画視聴）	サビ管 食品衛生責任者 生活支援員 生活支援員 生活支援員 生活支援員 生活支援員 事業所全体
11月	虐待防止研修（テキスト：見直そうあなたの支援を②）	事業所全体
12月	第3回法人全体研修（口腔ケア、記録の書き方、人材育成） 中堅者研修（オンライン） 虐待防止研修（サポカレ視聴、グループディスカッション）	法人全体 生活支援員 事業所全体
1月	全国生産活動・就労支援部会職員研修会 高齢知的障害者支援研修（オンライン） 自然栽培パーティー勉強会（オンライン） 虐待防止研修（テキスト：見直そうあなたの支援を③）	管理者 生活支援員 生活支援員 事業所全体
2月	セルフ共同研修会 自然栽培パーティー勉強会（オンライン） 虐待防止研修（家族から受けるハラスメントについて）	生活支援員 生活支援員 事業所全体
3月	第4回法人全体研修（防災、良い職場作り、法人理念） リーダー職員研修（オンライン） 虐待防止研修（ストレス&セルフチェック）	法人全体 主任 事業所全体

4年度 生産活動売上状況

月	奏+という 売上金額 (円)	楽2 売上金額 (円)	計 (円)
4	574,230	113,373	687,603
5	480,935	345,398	826,333
6	397,995	178,314	576,309
7	389,045	398,792	787,837
8	309,563	301,116	610,679
9	372,616	155,097	527,713
10	728,110	137,830	865,940
11	585,564	179,815	765,379
12	746,029	413,951	1,159,980
1	385,477	378,581	764,058
2	442,835	328,104	770,939
3	525,128	310,278	835,406
計	6,127,617	3,317,068	9,444,685

《原材料費率＝原材料費／売上金額》

原材料 費合計	1,767,176	343,055	2,110,231
比率	28.8%	10.3%	22.3%

## 【障害支援区分別人数】

## 生活介護

性別	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	非該当	合計
男性	5	5	8	1				19
女性	4	2	6					12
合計	9	7	14	1				31

※平均障害支援区分：4.7

## 【年齢別人数】

## 生活介護

性別	20歳未満	20-25	26-29	30-39	40-49	50-59	合計
男性	2	5	3	3	3	3	19
女性	0	2	1	1	5	3	12
合計	2	7	4	4	8	6	31

性別	平均年齢	最低年齢	最高年齢
男性	32歳10ヶ月	19歳1ヶ月	58歳0ヶ月
女性	40歳8ヶ月	20歳10ヶ月	51歳11ヶ月